

みどり

緑のかけはし

International Communication for Division of Agriculture (ICDA)

〈第14号〉

〒981-8555
仙台市青葉区堤通
雨宮町1番1号
東北大学農学部
農学研究科
国際交流委員会

No.14 March 2014



い みん むか しゃかい 移民を迎える社会



こくさいこうりゅう いんかいふく いんちよう
国際交流委員会副委員長

よねくら ひとし
米倉 等

さいきん 最近、イタリアを私的に観光旅行する機会がありました。ご承知のようにイタリアはなが ぶんめい れきし
なが ぶんめい れきし
が刻まれた美しい国です。1950年代60年代には、イタリアを旅行したアメリカ人が、ローマや
ナポリなどの美しい街で恋に落ちて、といったアメリカ映画が多く作られたものです。

ほぼ30年ぶりのヨーロッパ観光、美しい街々の景色は同じとはいえ、たくさんの観光客が集まる
目抜き通りでは、カバンや財布、オモチャなどを風呂敷に広げて商売をしている人をたくさん目に
しました。アフリカ、中東、南アジアなどであろう様々な肌の色や顔立ちをした、明らかに移民や難民
という人たちでした。晴れて喉がかわく日にはペットボトルを、雨の日にはカサを売っていました。
パトカーが来ると、それらをサッとまとめて路地裏に非難、過ぎ去って車の姿が見えなくなると元の
場所に帰って商売を続けるイタチごっこを繰り返していました。そして、何をするでもなくうつ
ている人もたくさんいて、治安が悪く緊張がぬぐえませんでした。見た目にはイタリア人かと思いま
すが、障害があっても働けず物乞いをする人も度々見かけました。

イタリアは世界の一等国だったはずではないか、雇用対策や社会福祉はいついどうなっているの
だろうか、といぶかしく思われました。さまざまな経緯から、移民や難民をむしろ積極的に受け入れ
てきたヨーロッパの国々ですが、さすがにその対応は容易ならざるものを感じさせました。政治、金融、
経済の混乱に加え、宗教も肌の色も言葉も異なる様々な流入者を抱えて呻吟するイタリアという
印象でした。夢のように思い描いていた麗しきイタリアが、目の前でもろくも崩れ去っていくよう
でした。

わたし自身、ここ30年から40年、ホームレスといわれる人々を除けば、日本の路上で物乞いを見た
記憶がありません。イタリアから帰って、日本はなんとすみやすい安心な国なんだと思いました。し
かし、ヨーロッパの各国は、豊かな市民社会が傷つくことになっても、移民を含めた新たな社会のあ

りかたを模索し真剣に取り組もうとしているようです。他方、日本は意図的にこのような問題を避け、未熟練労働者の流入を制限というよりむしろ禁止しています。

日本もイタリアが抱えているこのような問題に真摯に取り組んでこそ国際化なのだと思います。労働市場の開放など移民問題は、日本のマスコミで大きく取り上げられていませんが、日本とアジアの近隣諸国との間では重要な課題になっています。高齢化と著しい人口減少が予想される日本にとって、覚悟と勇気のいる決断が必要です。労働市場の開放は、イタリアやヨーロッパの国々がいま抱えているのと同じ様な困難を取りこむことにもなるでしょう。しかし、必要な熟練労働者やエリートのみを取り込んで、負の側面を遮断するという都合のよい対応が、今後も可能か疑問です。

日本の大企業は、社長や重役がすでに外国人を受け入れ始めています。急速に展開するグローバル化の下で、待たないの対応を迫られている様子が伺えます。企業に限らず日本社会全体が、そのような方向に大きく動かざるを得ない時代状況です。留学生を増やし始めたキャンパスの中は、来るべき日本の社会を考える試金石でもあります。日本の中にいて日本の内側の事情からしか物事を考えられない日本人にとって、すぐ近くにいる留学生の皆さんは、違ったものの見方考え方を紹介、提供してくれる大切な人たちです。そこで得られる知識や知恵は、大学や企業や社会全体にとって役に立つ日がくるに違いありません。学生同士、教職員も含めた活発なコミュニケーション、共同の活動を期待したいと思います。

留 学 生 紹 介

昨年4月・10月に23名が新たに留学生としていらっしゃいましたのでご紹介いたします。

- | 事 項 | 事 項 |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 国籍 2. 在籍課程 (2014年3月現在) 3. 所属分野 4. 研究テーマ | <ol style="list-style-type: none"> 5. 出身校 6. 趣味・特技 7. 自己紹介 |

ち え り お じ ー ほ
CHE, Leo Ji-Ho

1. アメリカ合衆国
2. 学部1年生 (G30)
3. 海洋生物科学コース
4. ー
5. Piedmont Hills High School
6. 釣り、バイオリンと二胡の演奏、描画、スケート
7. 読者のみなさん、こんにちは。私の名前は



リオです。東北大学海洋生物科学コースの一年生です。実は日本に来るのが初めてですが、今までのところ素晴らしい経験ができました。私は勉強すること、旅行することを楽しみにしています。今まで住んでいた所では雪を見たことがなかったので、仙台の雪は楽しみにしていることの一つです。そしてまた、私がこれまで見たことのない多くの

物がここにはあります。ここで過ごす間、より多くを見て、より多くを学びたいと思います。皆さん、どうぞ宜しくお願い致します。

ぼんばいばーん ちっぷしりん
PHONPAIPAL, Tipsirin

1. タイ王国
2. 学部1年生 (G30)
3. 海洋生物科学コース
4. ー
5. Mahidol Wittayanusorn School
6. アニメやドラマの視聴、歌うこと、料理、ピアノ演奏
7. 私の名前はチップシリン・ポンパイパーンです。私の名前の発音が難しい場合は、私をニックネームで“First”と呼んで下さい。私はタイのバンコクから来ました。私の専攻は海洋生物科学ではありますが、私は音楽と料理にも興味を持っています。私はピアノが弾けますし、歌うことも大好きです。だから、カラオケにはよく行きます。歌うことその他に、日本、韓国、アメリカやタイなど様々な国のアニメやドラマを見ることも好きです。今一番の目標は出来るだけ早く日本語を身につけることです。もし機会があるならば、日本人学生の友達を作りたいです。



ぶとら であるた
PUTRA, Delta

1. インドネシア共和国
2. 学部1年生 (G30)
3. 海洋生物科学コース
4. ー
5. Madania
6. 趣味：スノーボード、サイクリング、スポーツ全般
関心：サメ、海ワニ、深海生物
7. 皆さん、こんにちは。私はデルタ・プトラです。ニックネームはDPと申します。私は一年間札幌に住んでいたのですが、日本語での会話と読み書きが出来ます。しかし、まだまだ練習が必要ですので、一緒に日本語で話をしましょう。さらに現在、フランス語、イ



タリア語、ドイツ語、ロシア語、スペイン語とアラビア語を勉強しています。私の趣味は冬はスノーボードで、その他の季節は自転車に乗ることが大好きです。また、旅行も好きで、電車に乗るのが大好きです。日本人の友人はたくさんいますが、全国にもっとたくさんの友人を作りたいと思っています。一緒に食事をして、話をして、スポーツをしましょう。どうぞ宜しくお願いします。

らう げく ひん じゃーめん
LAU, Gek Khin Germaine

1. シンガポール共和国
2. 学部1年生 (G30)
3. 海洋生物科学コース
4. ー
5. Catholic Junior College, Singapore
6. 写真撮影、読書、ボウリング
7. 私は五人兄弟の最年長として生まれました。最年長者ということは、自分だけでなく兄弟の責任も担うことを意味しています。ゆえに、どんな行動を取る時も、家族のことを考慮してきました。学校ではスポーツリーダーに指名され、仲間の生徒の為に行事を計画しました。また、ボウリングの国内大会へも積極的に出場しました。つい最近(2013年11月)、私は National Youth Achievement Award (NYAA) で金賞を授与されました。NYAAはシンガポールの重要な若者開発計画の一つで、NYAA プログラムの狙いは14歳から25歳までの若者が個人の資質として独立独歩で、忍耐力を持ち、自分自身と社会と国に対して責任感を持つことを奨励するものです。私は2012年にNYAA銀賞を、2010年に銅賞を授与されました。



りゅう しんせい
劉 申静

1. 中華人民共和国
2. 大学院博士前期課程
3. 水産資源化学



- 水産生物由来の機能性成分、特に抗アレルギー成分に関する研究
- 上海海洋大学
1. 2012年4月から2013年3月までの一年間、上海海洋大学からの交換留学生としての農学研究科水産資源化学研究室で勉強しました。留学中、私は水産資源化学研究室内の優しい皆さんと良い研究環境が好きになり、ぜひここで更に学びたいと思うようになりました。私は今年の10月に大学院生として農学研究科に入り、新たな留学生生活を始めました。卒業後は日本で就職したいので、これから色々頑張らなければなりません。皆さん、よろしくお願ひ致します。

わん 柳

1. 中華人民共和国
2. 大学院博士前期課程
3. 生物海洋学
4. プランクトン
5. 上海海洋大学
6. 卓球、バドミントン、映画鑑賞
7. 王柳と申します。2012年4月から一年間、薬師がかった交換留学生生活を過ごし、昨年10月に農学研究科に入りました。性格は明るく、料理も得意です。趣味は卓球、バドミントン、映画鑑賞です。最近では日本の連続ドラマが好きになり、リーガル・ハイのファンです。よろしくお願ひ致します。



がく 鄂 爽

1. 中華人民共和国
2. 大学院博士前期課程
3. 食品科学
4. DNJの大腸がん予防効果に関する研究
5. 大連工業大学
6. 旅行、音楽
7. 中国から来た留学生の鄂爽と申します。友人から「よく気がつく面倒見のいいタイプ」と言われますので、これが自分の長所だと



思っています。これまでは親しい友人のためだけに全力を尽くし、それ以外の人にはそうではありませんでした。日本に来て以来、様々な人々に興味を持ち、親しい友人とも、それ以外の人々とも積極的に付き合いをし、友達の輪を広げています。たくさん友達を作り、様々な文化を知りたいと思っています。皆さん、一緒に旅行をし、遊び、そして勉強しましょう。

だい 代 曉 艶

1. 中華人民共和国
2. 大学院博士前期課程
3. 海洋生命遺伝情報システム科
4. 魚を使った環境モニタリング
5. 内モンゴル農業大学
6. スポーツ



代曉艶と申します。中国の内モンゴル出身のモンゴル民族です。2009年7月に内モンゴル農業大学動物科学専門を卒業しました。2010年10月に来日し、日本語学校で日本語を勉強しました。

あんとにうす ぼびー いえふりー あでい りあんと
Antonius Boby Yefry Adi Rianto

1. インドネシア共和国
2. 大学院博士前期課程
3. 国際開発学
4. Marine Protected Area In Indonesia
5. ブラウイジャヤ大学 マラン
6. 写真撮影、ダイビング



私は東北大大学院農学研究科国際開発学の留学生です。国籍はインドネシアです。母国ではインドネシア共和国海洋水産省の公務員であり、インドネシア東部に位置する東ヌサ・トゥンガラ州クパンの国立海洋保護区庁で働いておりました。私自身について簡単に説明しますと、私は沢山の夢を持つ普通の学生です。夢の一つは、私の人生の中でも素晴らしい時間となるで

あろう一年間をここ仙台で過ごし、東北大学という優れた大学から修士号を授与されることです。
どうぞ宜しくお願いします。

さぶととさらすともあり
SAPTOTO, Sarastomo Ari

1. インドネシア共和国
2. 大学院博士前期課程
3. 国際開発学
4. Disaster Logistics Management
5. ガジャ・マダ大学
6. スポーツ
7. 私はインドネシアのジョ



グジャカルタで 1975年2月26日に生まれました。私は結婚していて娘と息子の二人の子供がいます。ガジャ・マダ大学社会学部を卒業し、2006年よりインドネシアのスレマン地方自治体の労働・社会政策機関で公務員として働いてきました。2012年よりブラウイジャ大学と東北大学間のリンケージプログラムに在籍しています。現在はジョグジャカルタ特別州のスレマンに家族と私は住んでいます。

だにありふわひゆでい
Dani Arief Wahyudi

1. インドネシア共和国
2. 大学院博士前期課程
3. 国際開発学
4. The Policy Implementation of Ecotourism in Bromo Tengger Semeru National Park
5. ガジャ・マダ大学
6. 旅行、園芸、歌うこと
7. 私はインドネシアのマランで 1978年5月10日に生まれました。ジョグジャカルタにあるガジャマダ大学林学部を卒業しました。公務員として林野庁で森林の生態系の管理者として働いてきました。2008年 Aketajawe Lolobata 国立公園の勤務に就き、2011年よりは Bromo Tengger Semeru 国立公園に勤務しておりました。2012年よりインドネシアのブラウイジャ大学行政学修士課程と東北大学農学専攻科間のリンケージ



プログラムに在籍しています。

プログラムに在籍しています。

ゆそふむはまどふいとりの
YUSOF, Muhammad Fitri

1. マレーシア
2. 大学院博士後期課程
3. 海洋生命遺伝情報システム学
4. Monitoring the genetic influence of radioactive materials in fish using the fish produced by gynogenesis
5. マレーシアプトラ大学



釣り、読書、水泳、アラビア語
私は探究心が強く、いつも質問をしています。学ぶ中で、新しい経験と新しい友達を得ることができました。新しいことを学ぶのを楽しみにしております。

い
章 達 獅

1. 中華人民共和国
2. 学部研究生
3. 分子酵素学
4. Pin1 の発現を変化させる天然物の探索 (予定)
5. 広州医科大学
6. 卓球、バドミントン
7. 私は章達獅と申します。中国広州からの留学生です。趣味は卓球とバドミントンです。小さい頃から日本の文化が好きだったので、両親から留学を勧められたとき、留学先を日本に決めました。どうぞ宜しくお願い致します。



ちりげる
澈力格尔

1. 中華人民共和国
2. 学部研究生
3. 環境経済学分野
4. 内モンゴルにおける新しい地域づくりの手法に関する研究
5. 内モンゴル民族大学
6. 卓球、アニメ、読書 (推理小説)
7. 私は中国の内モンゴルから来た、澈力格尔



わたしはチンギスハンの子孫です。2013年10月に日本に来たばかりです。私は外向的な性格で、友達を作ることが好きです。私は日本のアニメが大好きで、色々な漫画を読みます。卓球が一番好きな運動で、小学生の頃からずっと卓球をしています。また、日本語は三ヶ月間勉強しましたが、上手になりませんでした。これから、どうぞよろしくお願い致します。

しゅう ろう
秀 栄

1. 中華人民共和国
2. 学部研究生
3. 国際開発学
4. 内モンゴル東部における農産物の生産・流通に関する研究
5. 内モンゴル民族大学
6. 外国語を学ぶこと
7. 日本で過ごした何年かの間、嬉しい時も悲しい時もありましたが、一番強く感じた事は時間の大切さです。時間が思うよりも早く過ぎ去ってしまうことが、本当に残念です。今回進学のチャンスを得て、日本に来ることが出来たので、初心を忘れず、気持ちを新たにもう一度頑張りたいです。どうぞよろしくお願いいたします。



ざん たお
庄 涛

1. 中華人民共和国
2. 大学院研究生
3. 機能形態学
4. 炎症性サイトカインの牛乳房炎に及ぼす影響
5. 揚州大学
6. バスケットボール、旅行、音楽、アニメ、ドラマ
7. 私は庄涛と申します。江蘇省の揚州から参りました。三年前に短期留学生として来日した際、東北大学農学研究科を見学しました。とても楽しかったです。今やっと東北大学に戻ることが出来て、嬉しく思っています。これから皆さんと一緒に頑張りたいと思っています。



おります。どうぞよろしくお願い致します。

いすらむ じゃひどる
ISLAM, Jahidul

1. バングラディッシュ人民共和国
2. 大学院研究生
3. 栄養学
4. Single Nucleotide Polymorphism of TAS2R gene and Taste Preference: Impact on Food Intake and Risk of Glucose dysregulation
5. ダッカ大学
6. クリケット
7. 私はジャヒドウル イスラムです。バングラディッシュから来ました。27歳です。機能分子・生命化学科を卒業しました。栄養・糖尿病・癌の研究と、また薬物代謝について興味をもっています。私は東北大学でこのような機会を得ることができて幸せに思っています。また、私にとって栄養学研究室で研究できる良い機会であると思っています。そして、私はとても日本が好きで、日本の文化と伝統を知ることに関心を持っています。



ちよう ひ
趙 飛

1. 中華人民共和国
2. 特別聴講学生
3. 水産資源化学
4. ホタテガイの成分分析
5. 上海海洋大学
6. ピアノ、卓球
7. 趙飛と申します。私は平成25年4月から東北大学農学部で勉強し、水産資源化学研究室にお世話になっています。私は来日時、日本ではなぜ食品の安全に関する問題があまりないのかを疑問に思っていました。来日後半年が過ぎ、その問題も大体分かるようになりました。これから自分の卒業論文のテーマ「灰色筋肉ホタテ貝と普通色筋肉ホタテ貝の成分比較」も頑張りたいです。日本語は



あまり上手ではありませんが、どうぞ宜しくお願い致します。

童 佳麗

1. 中華人民共和国
2. 特別聴講学生
3. 生物海洋学
4. 渦鞭毛虫、鞭毛虫について
5. 上海海洋大学
6. 音楽、卓球、バドミントン、料理、文章を書くことなど
7. 上海海洋大学からきました。三年生の時、一年間の交換留学生として勉強する機会を得ました。ここ数カ月、研究室のメンバーの助けを得ながら、今までとはまったく違う東北大学という環境の中で、私は新鮮で幸せな生活をしてきました。私は青く広い海と神秘的な生物学が好きです。だからここを選びました。そして、ここでのすべてのことにとっても感謝し、貴重であると感じています。私は夢を追い求めることを決してあきらめない女の子です。全ての旋律と経験のひとひとつが私の人生に、熱心な態度を除けば、穏やかな思考力のみを残します。生活を愛し、科学を愛し、創造を愛し、挑戦することを決してやめない、これが私です。



ぎるさん がんない GIRSANG, Gannady

1. インドネシア共和国
2. IPLA交換留学生
3. 国際開発学
4. Environmental Economics
5. ボゴール農業大学
6. スポーツ、音楽、旅行
7. 私は学部四年生で、一年間の交換留学生として東北大学に在籍しています。私の専攻は経済学で環境・資源経済学にも興味を持っています。現在、来日ほぼ六ヶ月目です。私は仙台、日本文化、気候、そして私に親切



にしてくれる日本人との交流を楽しんでいます。友達になりましょう。私に話しかけるのをためらわないで下さい。宜しくお願い致します。

黄 俊龙

1. 中華人民共和国
2. IPLA交換留学生
3. 農業経営経済学
4. ー
5. 中国地質大学 (武漢)
6. バドミントン、バスケットボール、歌うこと
7. 他の人が考えないことをあえて考えて下さい。他の人がしないことをあえてして下さい。そして、一旦決めたなら、私はそのことを最速で成し遂げられるよう最善を尽くします。性格は楽観的で、外向的でもあります。私が常にユーモラスで楽しい雰囲気をつくろうとしているので、私と話すのが退屈と感じる人は誰もいません。勉強に関しては勤勉であるべきですが、人生には勉強の他にも楽しめる多くのことがあるので、勉強だけをするのはしないで下さい。



あんだーそん はな まりあん ANDERSSON, Hanna Marianne

1. スウェーデン王国
2. JYPE交換留学生
3. 園芸学
4. ー
5. ウプサラ大学
6. 洋服のデザインと縫製、園芸、演劇
7. 私は北に位置するウプサラで生まれ育ったスウェーデン人の学生です。だから私は寒さを恐れる人ではありません。私は自然を愛し、母国の大学では生物学の学士号の勉強をしています。東北大学では応用生物科学を勉強しています。私の好きな科学の分野は生態学と進化論です。学校以外では創作活動が好きで、スウェーデンでは演劇と服をデザインして縫うことをしています。



ばいやー まるせる ばすかる
BEIER, Marcel Pascal

1. ドイツ連邦共和国
2. COLABS交換留学生
3. 植物細胞生化学
4. Nitrogen metabolism in rice
5. ルプレヒト・カール大学
ハイデルベルク
6. 剣道
7. 私の名前はマルセル・パスカル・バイヤー
で、24歳です。母国はドイツです。私はヴ



ッパータール市で育ち、ハイデルベルク市で勉強しました。私は、ドイツのハイデルベルク大学の修士課程に在籍する学生で“Molecular Biosciences in the major molecular, cellular and developmental biology of plants”が研究テーマです。日本には一年間滞在予定で、目的は植物細胞生化学研究室でのCOLABS共同研究留学生派遣プログラム参加です。日本滞在了後は、母国にて修士課程を修了し、Ph.D.課程に進む予定です。

平成25年度 学術交流協定校間交流および活動実績報告

中国海洋大学 (中国)

水圏植物生態学分野 教授 吾妻 行雄

2014年に、青島市において世界園芸博覧会が開催されます。博覧会の催しの中で、中国海洋大学水産学院の栽培藻類学研究室が中心となって海藻を水槽展示する計画があります。現在、ジャイアントケルプの試験的な飼育にくわえて静岡県下田のアラメ・カジメと函館市恵山

のチガイソなど大型なコンブ目褐藻の飼育を試みています。5月13日には、栽培藻類学研究室の李景玉准教授（元農学研究科水圏植物生態学分野助教）と修士の学生を招聘して函館市恵山の海岸に採集に行きました。また、7月2日から4日には、李景玉准教授と中国科学院海洋研究所の楊紅生副所長はじめ計9名を招聘し、北海道立中央水産試験場と栽培水産試験場への訪問の実現をお世話しました。7月5日には農学研究科へも訪問いただき、楊紅生副所長より「中国のナマコ増養殖に関する研究」と題してご講演をいただき交流を深めました。



中国海洋大学水産学院での講演

2013年9月10日から13日には、私と青木優和准教授が中国海洋大学水産学院から招聘いただき、海藻群落

とウニ類の生態学的研究と震災後の藻場の動態について講演し、活発な意見交換を行いました。栽培藻類学研究室の宮慶礼教授とは今後の緊密な交流を約束しました。また、訪問期間中に中国科学院海洋研究所にも引率いただき、研究の交流を深めました。



栽培藻類学研究室との歓談 右端は宮慶礼教授、左端は李景玉准教授



中国科学院海洋研究所との歓談 左から2番目が楊紅生副所長

えんがんせいぶつせいさん がくぶんや じゆんきょうじゆ いけだ みのる
沿岸生物生産システム学分野 准教授 池田 実

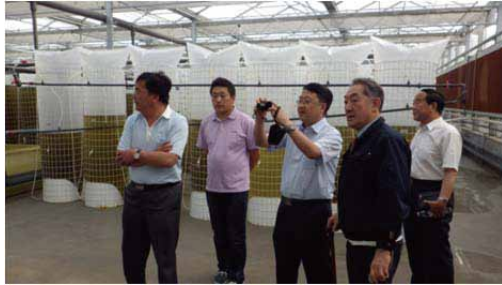
えんがんせいぶつせいさん がくぶんや ちゆうごくかいようだいがくすいさんがくいん リー-きょうじゆ
沿岸生物生産システム学分野では、中国海洋大学水産学院の李琪教授をカウンターパートとして 10年
いじょう こうりゅう つづ 以上におよぶ交流を続けています。李教授は、本研究所の博士課程を修了し、博士研究員として私



ちゆうごくかいようだいがくすいさんがくいん げんかん
中国海洋大学水産学院の玄関

ちの研究室で研究を行った経歴を持っています。李教授の
けんきゅうしつ わたし どうよう けんきゅう おこな けいれき も リー-きょうじゆ
研究室では、私たちと同様に、DNA分析や飼育実験を主体とし
た貝類およびナマコ類の遺伝育種学的研究を精力的に推進して
います。研究材料や分析技術に関する情報交換はもちろんです
が、中国海洋大学のインターシップ制度を活用して李研究室の
だいがくいんせい う い きょうどうけんきゅう おこな さいきん
大学院生を受け入れ、共同研究を行ったこともあります。最近で
は、国際的な JST産学連携プロジェクト「閑上地域の産業復興・
新生に向けたアカガイの高効率複合生産システムによるグローバ

ル増養殖産業の開発」(代表者:木島教授)に参画いただき、中国海洋大学が保有する広大な養殖施設
を試験地としたアカガイの効率的生産システムの開発研究を行っています。



ようよくしせつ せつめいふうけい ちゆうおう リー-きょうじゆ
養殖施設の説明風景。中央が李教授、
みぎどなり きしまきょうじゆ
その右隣が木島教授。



ちゆうごくかいようだいがく かんげいかい ひと
中国海洋大学での歓迎会での一コマ。
よくじつ きおく
翌日はみんな記憶をなくしていました。

ようしゅうだいがくどうぶつ がく ぎ じゆつがくいん ちゆうごく こうりゅう
揚州大学動物科学技術学院(中国)との交流

きのうけいたいがくぶんや きょうじゆ ありま ひさし
機能形態学分野 教授 麻生 久

揚州大学動物科学技術学院と東北大学農学研究所は、2004年12月に部局間学術交流協定を締結し、
職員・大学院生の学術交流を継続的に活発に実施した。この成果が認められ、2008年6月には大学間交流
協定締結に発展した。大学間交流協定に基づき、大学院生の相互交流のため、揚州大学から大学院生の
短期留学を毎年受け入れて、学生を対象とした動物科学に対する研究会、情報交換、見学などを行って
いる。今年10月に、加藤教授、島津助教が揚州大学を訪問し、今後5年間の大学間交流協定を締結しま
した。

今年度は、劉紅(Liu Hong)さん、張凱麗(Zhang Kaili)さん、柳宏波(Yang Hongbo)さんが、2013年10月6日か
ら 10月23日まで 18日間の東北大学農学研究所応用動物学系への訪問となった。彼女たちは揚州大学動物
科学技術院に所属して、動物飼養学、動物繁殖学、動物育種学を専攻している。分野訪問の際は研究内容の
説明を受け、それぞれの観点から積極的に質問し、所属学生と親しく交流をしました。川渡農場には2泊
しました。

交流事業の一つに、大学院生が主体となって企画・運営を行う「交流セミナー」があり、それぞれの研究
内容を発表しました。また、放課後には卓球とバドミントンなどで交流を深めました。終了後に撮影し
た写真を見ていただければ、学生間交流が実のあるものとなっていることが、お判りいただけることと思
います。

本交流事業を実施できたのは、東北大学大学院農学研究所国際交流委員会「国際交流を目的とした短期
招聘留学生事業にかかる経費」に申請し、滞在経費が認められたお陰であり、改めて感謝いたします。ま

た、応用動物学系職員と学生の皆様、そして特に中心的に働いていただいた応用動物学系委員長加藤和雄教授の協力に感謝いたします。



交流セミナー終了後の
応用動物学系M1学生と留学生



放課後のスポーツ交流：
機能形態学分野学生と留学生

■インドネシアの協定校等との交流

国際開発学分野 教授 米倉 等
大学間協定校であるガジャマダ大学(インドネシア、ジョグジャカルタ市)農学部長ジャムハリ准教授(本学修了、農学博士)の協力を得て、2013年8月、大学所在地の背後にあるムラピ山の噴火・火砕流の被害地域を視察できた。非難計画、防災対策が喫緊の課題とされるが、対応はスムーズには進んでいないようだった。2013年5月には同じく大学間協定校であるボゴール農科大学、部局間協定校バジャジャラン大学(バ



ガジャマダ大学にて
災害研究についてヒアリング(2013年8月)

ンドン市)を訪問することができた。両校には、国際開発学分野の大学院生の調査を支援していただき大変お世話になった。ボゴール農科大学・経済経営学部長のユスマン教授を2014年1月本学に招聘、ヒューマンセキュリティ・プログラムの授業のひとつ特論セミナーで、貧困と食糧の安全保障について講義していただく予定でいる。大学院のヒューマンセキュリティ・プログラムの協定校ブラウザジャヤ大学とは、大学間協定を締結すべく、準備を進めている。また、文系の短期留学受け入れプログラムを経済系で担当しており、昨年

■上海海洋大学(中国)



解君、趙君が学ぶ水産資源化学分野の人たちと

水産資源化学分野 准教授 山口 敏康
2013年度は学生間の交流が活発に行われました。4月3日には学部特別聴講生として上海海洋大学食品学院3年生趙飛君と生命科学院3年の童佳麗君が仙台に到着しました。所定の手続きを終えて、それぞれ海洋生物科学系の水産資源化学研究室および生物海洋学研究室に席をおき、学生実験、学部授業の受講を開始しました。7月には本学より本格的な長期留学生として上海海洋大学食品学院の大学院で学院長



しゃんはいこうかいほくぶつかん まつまえくん あんないで
上海航海博物館を松前君の案内で見学

けんきゅうかだいがくいんぜんきかてい ねん まつまえなりきくん きこく がつ すいさん
研究科大学院前期課程2年の松前成輝君が帰国しました。9月には水産
しげんかかぶんや かいうしんくん せいぶつかいようがくぶんや ちんしんしんくん だいがくいんぜんき
資源化学分野の解宇晨君と生物海洋学分野の沈晨君が大学院前期2
ねん かてい しゅうりょう がつ りゅうしんせいくん わんりゅうくん だいがくいん
年の課程を修了しました。10月には劉申静君と王柳君が大学院の
ぜんき ねん かてい にゅうがく すいさんしげんかかぶんや せいぶつかい
前期2年の課程に入学し、それぞれ水産資源化学分野および生物海
ようがくぶんや しよぞく
洋学分野に所属しました。

とうほくだいがく しゃんはいかいようだいがく こうりゅう のうがくぶ ぶきよかんこうりゅう
東北大学と上海海洋大学との交流は農学部との部局間交流から
だいがくかんこうりゅう はってん きょうしよくいん ふく こうりゅう く ひろ
大学間交流に発展し、教職員を含めた交流を繰り広げてきました。
こんご ますますかっばつ こうりゅう つぶ ねが
今後、益々活発な交流が続くことを願っています。

■ 国立台湾海洋大学 (台湾)

せいぶつかいようがくぶんや きょうじゆ えんどう よしなり
生物海洋学分野 教授 遠藤 宜成

たいわんかいようだいがく おおやけ こうりゅう のうがくぶ かいさい ねんにほん がっかい にほん
台湾海洋大学との 公の交流はありませんでしたが、農学部で開催された2013年日本ベントス学会・日本
プランクトン学会 合同大会 (2013年9月27日～30日) に台湾海洋大学の 蔣 國平 教授夫妻が参加してく
れました。発表したポスターのタイトルは “The observation of haptophyte-thriving event in the East China Sea”
はつびよう
です。仙台は夫妻が始めて滞在した外国の地なので、懐かしい場所を訪れたそうです。

■ ロシア科学アカデミーシベリア支部 (ロシア)

えんげいがくぶんや じゆんきょうじゆ かなやまよしのり
園芸学分野 准教授 金山喜則

ねん がつ か とうほくだいがく けんこうぞうしんせいぶんがんゆう じせいどうしよくぶつ かん にちろ ごうどう
2013年11月7日に東北大学において、健康増進成分含有ロシア自生動植物に関する日露合同セミナー
(Indigenous flora and marine fauna of Russia with health promoting ingredient) を、東北大学、ロシア科学アカデ
ミーシベリア・極東支部、国際科学技術センターの共催で行った。協定先であるロシア科学アカデミー
シベリア支部の細胞遺伝学研究所の Kochetov 博士らを招いて、セッ
ション1として自生植物、セッション2として海洋生物について、
じせいしよくぶつ かいようせいぶつ
日露7名 (内ロシア側4名) の研究者による発表と活発なディスカ
ッションが行われた。自生動植物の遺伝資源としての重要性を
さいかくにん こんご のうがく いがく ばんや
再確認するとともに、今後も農学や医学などのライフサイエンス分野
じょうほうこうかん きょうどうけんきゅう しんてん きたい ないよう
での情報交換や共同研究の進展が期待できる内容であった。セミ
ナー終了後も懇親会において、研究分野を超えた有意義な交流が
おこな
行われた。



こんしんかい ようす
セミナーの懇親会の様子

■ 济州大学農 業生命科学部 (韓国)

どうぶつせいり がくがぶんや きょうじゆ かとう かずお
動物生理科学分野 教授 加藤 和雄

ねん がつ にち ちえじゆだいがくこうのうぎょうせいめいか がくぶ かんこく
2012年9月22日に、济州大学農 業生命科学部との学術交流を深めるために、济州大学校側の世話人
ある康珉秀 (Kang Min-Soo) 教授のご努力により、建国大学動物生命科学技術大学校 (韓国) と東北大学農学部
の参加で、動物生命生産科学に関する第1回のシンポジウムを济州大学校において開催した。本年度は、2013
ねん がつ にち けんこくだいがくどうぶつせいめいか がくぶ じょうき だいがく けんきゅうしや さんか
年11月26日にソウルにある建国大学動物生命科学技術学部において、上記の3大学の研究者の参加で、李相

洛 (Lee Sang Rak) 学長および李洪求 (Lee Hon Gu) 教授のご努力によって第2回目のシンポジウムを開催した。参加者は約60名ほどであった。来年度は、仙台において第3回のシンポジウムを開催する予定である。本年度のシンポジウムの講演は、李相洛総長の挨拶に続いて4名の発表者によって行われた。内容は、免疫機構、脂肪細胞の新規機能、馬の生産と多岐にわたった。最後は、加藤のお礼の言葉で終了した。今回のシンポジウムから、韓国の畜産試験場の研究者も参加しており、来年度から講演を担当してもらうこととした。



講演中の
盧尚建 (Roh Sang Gun) 准教授。

このように、2012年に済州大学校で初めて開催したシンポジウムは、済州大学校のみならず韓国の大学・諸研究機関との学術交流へと徐々に拡大しており、今年秋に仙台で開催予定の第3回シンポジウムの更なる発展が期待できる。



けんこくだいがくこう せきひ
建国大学校にある石碑。
かんこくのうぎょう せんとう た かつやく
韓国農業の先頭に立って活躍
していることを自負している。

■ ラキユラ大学実験医学部 (イタリア)

動物生殖科学分野 准教授 種村健太郎

2013年9月から10月にかけて、イタリア、ラキユラ大学実験医学部の Keti Zeka さんが動物生殖科学分野に滞在し、「卵成熟における細胞外マトリックスの動態」の研究を行いました。来日後、まずは東京観光を楽しむなど、研究活動の合間に各地を巡るとともに、山海の珍味を楽しんだそうです。Keti さんは社交的な性格であり、すぐにメンバーと親しみ、特に大学院生の大高康佑さんを中心に研究協力体制が築かれ、他分野からも協力を受け研究成果をあげて帰国しました。

動物生殖科学分野 前期博士課程 大高 康佑

Keti さんはイタリアでもジャパニーズレストランに行くほどの日本食好きで、今回も寿司、天ぷらを食べることを大変楽しみにしていました。特に、回転寿司店では新幹線システム (特別注文皿が新幹線の模型ののって、通常皿を追い越してやってきます) には大変驚くとともに大喜びしていました。さらに居酒屋にも大満足だったようです (写真中央: Keti さん)。また、観光として松島に赴いた際にはその壮大な景色に非常に感銘を受けたそうです。

私が研究室の中で Keti さんと話す機会が最も多く、英語によるコミュニケーションは難しいものでしたが、イタリアの美しい景色だけでなく英語の言い回しや読むべき本などを多く教えて頂きました。Keti さんの研究に対する真摯な姿勢から学び取るべきものが多く、国際的な研究者として活躍したいと思う良いきっかけとなりました。まだまだある日本の良いところを見つけないかということで、必ず、再び仙台に来たいとのことでした。



1) 台北医大から博士課程後期3年の課程に入学者



左から台北医学大学陳俊榮教授、駒井研究科長、白川准教授、何欣蓉さん(D1)

4月から何欣蓉 (Ho Hsin-Jung) さんという台北医大修士課程修了の方が、博士課程後期3年の課程に入学しました。所属は生物産業創成科学専攻の栄養学分野です。彼女は、台北医大では培養細胞等を用いて植物中の発がん抑制物質等について検討してきましたが、栄養学研究室ではまずは培養細胞系でのビタミンK2の抗炎症作用メカニズム等について検討し始めております。日本人学生との交流も盛んに行われているようで、台北に一時帰国した時には日本人学生がお世話になったと聞きました。学術交流と異文化交流の両方を推進してもらいたいと望んでおります。

2) 台北医学大学の陳俊榮教授が来室

10月31日(木)に台北医大の陳俊榮教授 (Prof. Jiun-Rong Chen) が来室し、研究科長室にて大学間協定締結に向けた取り組みの進展状況について説明がありました。台北医大は医学研究科と薬学研究科との交流実績が既にあり、農学研究科と合わせれば少なくとも3部署の交流実績があることになり、締結は時間の問題と予測されます。病院を3つ持つ台北医大との大学間交流は医学系とのつながりも重要ですので、ぜひとも実現して欲しいと願っております。これまで基礎分野である農学研究科だけであった部局間交流協定を拡大して、2014年度にも大学間協定の締結が相成ることを祈っております。

3) 台北医学大学の学部4年生の王氏の当研究科での滞在予定が決まりました。

平成26年1月19日の来仙の予定で、台北医大4年生の王孝允 (Wang Hsiao-Yun) さんが1か月間の予定で栄養学研究室に滞在予定となりました。

モンゴル農業大学

環境システム生物学分野 准教授 多田千佳

2013年8月に、モンゴル農業大学へ、東北大学農学研究科から、教員の中井裕教授、池田実准教授、多田千佳准教授、吉原佑助教の4名、そして、大学院生2年の琴賀岡朋絵1名の計5名で伺った。現地では、モンゴル農業大学の学部長であるバルダン教授が、対応してくれた。バルダン先生には、現在、私たちが行っている「モンゴル河川周辺の家畜由来糞尿汚染と生態系への影響」の調査について、モンゴル農業大学の教員に協力をお願いし、また、バルダン先生の紹介によって、同大学教員のマギー助手、ニャム教授が調査に同行してくれた。バルダン先生とは、今後、モンゴル農業大学から東北大学へ短期留学などを行うための手続きについての話し合いや、来年度、講演会を開くことについても話をした。また、今後、2国間での共同研究を行えるように、予算を獲得することなどについても話し合いを行うことができた。



がわ ちょうさ む いけだせんせい ただ
 オルホン川の調査に向かって 池田先生、多田、
 けんきゆうほじょ じよしゆ
 ダーシャさん（研究補助）、マギー助手



のうぎょうだいがく まえ
 モンゴル農業大学の前で
 いけだせんせい ただ きょうじゆ
 池田先生、多田、バルダン教授

しせつけんがく じっし 施設見学の実施

10月5日、農学部・農学研究科に在籍する留学生を対象に、蔵王町にあるお釜と白石市にある白石城で行われた“鬼小十郎まつり”を見学する、施設見学を実施致しました。

以下は参加者の感想です。

かいようせいぶつかがく りお ちえー
 海洋生物科学コース Leo J. CHE

東北大学に進学する事が決まる前から、私はずっと日本を訪れることを切に願っておりました。私がこれまでに写真や日本人を通じて見た日本の全てに、私が期待する特別な何かがありました。私は長く暑い夏の後の、鮮やかな秋の色に染まる木々と、爽やかな山の風を切望していましたから、白石城や蔵王のお釜のような都会から離れた静かな場所を訪れる機会を与えて頂いたことに満足していました。人生は期待を上回ることを好むものだ、私は常に気付かされています。そして日本は確かに私が予想したよりずっと多くを私に与えてくれました。

まずは、古典的に天気の話から始めましょう。その日の天気は明らかに特別でした。それがどうだったかを適切に理解するために、私の友人の好きな“Silent Hill”というゲームを想像して下さい。そのゲームを知らない人は綿のように真っ白な壁面を想像して下さい。なぜならその日は厚い霧が立ち込め、視界が20メートルもなかったからです。すべての滝はお釜と大部分の紅葉とともに、水のしずくが私の髪にできる程の白く厚い霧に覆われ、見えなくなっていました。それでも私は見えないことを承知の上で、見ることを試みました。私がお釜を見る代わりに得たものに最も近いものは、例えるならばたぶん私が宇宙服なしで別の惑星の上に立ったときに得られるものでしょう。灰色の光の下に見えるお釜の周りの景色は、少しの植物が砂と岩の間にあるだけの全く寂しい物でした。その灰色の雲の中の静まりかえったその場所に人がいる事を示す根拠は、地面にある木の柵と見学コースを示す木製の看板と、たまに見える人の形をした影だけでした。



ざおうたきみだい
 蔵王滝見台にて

当初の目的である御釜を見られなかったにもかかわらず、未だかつて私はこのような景色を見たことがなかったので、私に深い印象を与えました。

“霧の国”の次に、私たちは白石城を訪れました。そこでは地元のお祭りである“鬼小十郎まつり”を見学しました。小雨によってわずかにじめじめしてはいましたが、最大の呼び物である道明寺の戦い(1615年)の再現に水をさすことはありませんでした。演武は良く、私はそれを見て非常にぞくぞくしました。特に片倉鉄砲隊の火縄銃の一番射撃と片倉弓隊の演武は良かったです。しかし、真田忍者隊が城の天守閣から張られたロープを滑

降りてきたにもかかわらず、私は忍者に無関心であることを認めないわけにはいきませんでした。(紙手裏剣の使用はまったくありませんでした…)その後、城の歴史に関する資料を展示する近くにある博物館を訪れました。参加者の多くは城の歴史に関する映画を見ましたが、個人的に博物館の展示物と近くの屋台(別の名を空腹)により興味を持っていましたので、私は映画を見ませんでした。博物館見学でこの日の予定はすべて終了となりました。

全般的に、この日は予期せぬ事によってさらに忘れがたくなる楽しい一日だったと確実にいえるでしょう。道に迷わないようにしながら霧の中、湖を探してお釜の周りを歩き回ったことを決して忘れませんし、白石城での火縄銃の一斉射撃の地響きのする射撃音をすぐに忘れることは出来ません。旅行の計画を立てるにあたり、予期せずにおこることはプラスとマイナスの両面を明らかに持っているため、計画は必ずしも楽しくて面白い時間を考慮に入れて完璧にしてから出発する必要はなく、時々ただそこに行って得られる事を経験するのも、旅行を楽しむ醍醐味だと言えるでしょう。尾定誠教授、そして農学部スタッフの皆さん、このような機会を与えて下さいましたことに感謝致します。



しろいじょう
白石城にて

海洋生物科学コース **Delta Putra**

10月5日土曜日、私は農学部国際交流委員会主催の施設見学で蔵王のお釜と白石城へ行きました。天気はあまり良くありませんでしたが、参加者同士がお互いをよく知り合う機会になり、また紅葉も楽しむことが出来ました。

午前中はほとんど雨で濃霧のため、蔵王の滝見台から見る三階の滝、そしてお釜(五色沼)も見ることが出来ませんでした。けれども、留学生同士が知り合う良い機会となり、農学部の留学生の知り合いが出来ました。

午後、私たちは白石城へ行き、道明寺の戦いの再現である鬼小十郎祭りを見学しました。雨と混雑により戦いの再現を全て見ることは出来ませんでした。お祭りの最中に食べた牛タンまんじゅうはとても



おかま
御釜レストハウスにて

美味しかったです。あまりに美味しかったのでもう一つ買ったのですが、売り切れてしまい、かわりに大きなたこ焼きとミルクティーアイスクリームを買いました。私が食べた三つのどれもがとても美味しかったです。

私はこの旅行のように留学生と日本人学生が話をしたり活動と共にしたり出来る次の機会を待っています。それが旅行であるかちょっとしたグループの会であるかにかかわらず、常にお互いを知り合う良いスタートになります。雨が降ってはいいましたが、私はこの旅行を本当に楽しみました。私の新しい人生は始まっています。